

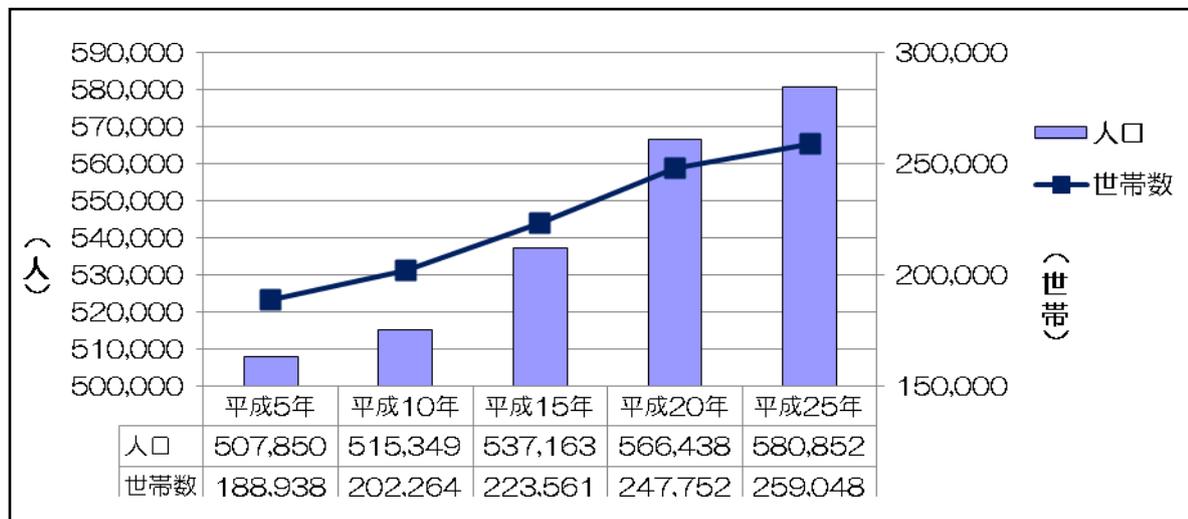
第2章

川口市の現状

第1節 人口の推移

1 総人口と世帯数の推移

平成25年1月1日現在、人口は580,852人、世帯数は259,048で平成5年から人口、世帯数ともに増加傾向にあります。



出典：各年1月1日現在総人口

2 段階別人口の推移と将来推計

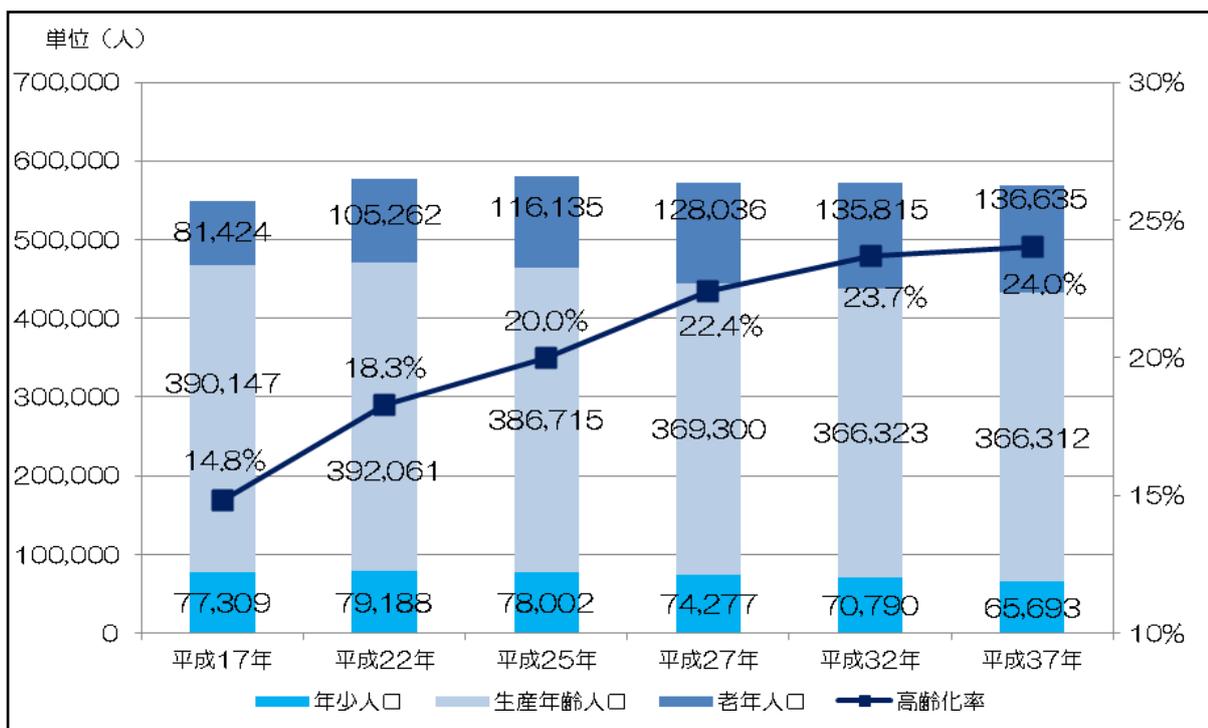
平成17年から25年までの人口の推移と平成25年から37年の将来推計をみると、年少人口は減少傾向にあり、平成17年は77,309人であったのに対し、平成37年には65,693人と推計され11,616人減少することが予想されます。

老年人口は平成17年には81,424人であったのに対し、平成37年には136,635人と推計され55,211人増加することが予想されます。また、高齢化率でみると、平成17年の14.8%から平成37年には24.0%に増加し、約4人に1人が高齢者になることが予想されます。

段階別人口の推移と将来推計

(単位：人)

	平成 17 年	平成 22 年	平成 25 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
	住民基本台帳			将来推計人口		
総人口	548,880	576,511	580,852	571,613	572,928	568,640
年少人口 (0～14 歳)	77,309	79,188	78,002	74,277	70,790	65,693
生産年齢人口 (15～64 歳)	390,147	392,061	386,715	369,300	366,323	366,312
老年人口 (65 歳以上)	81,424	105,262	116,135	128,036	135,815	136,635
うち前期高齢者 (65 歳～74 歳)	53,757	66,377	67,871	72,350	66,538	55,355
うち後期高齢者 (75 歳以上)	27,667	38,885	48,264	55,686	69,277	81,280
高齢化率 ^{注1}	14.8%	18.3%	20.0%	22.4%	23.7%	24.0%



出典：平成17年から25年は1月1日現在総人口

平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の市区町村別将来推計人口(平成25年3月推計)」(平成22年国勢調査人口を基準に推計)をもとに作成

注1 高齢化率とは、65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のことをいいます

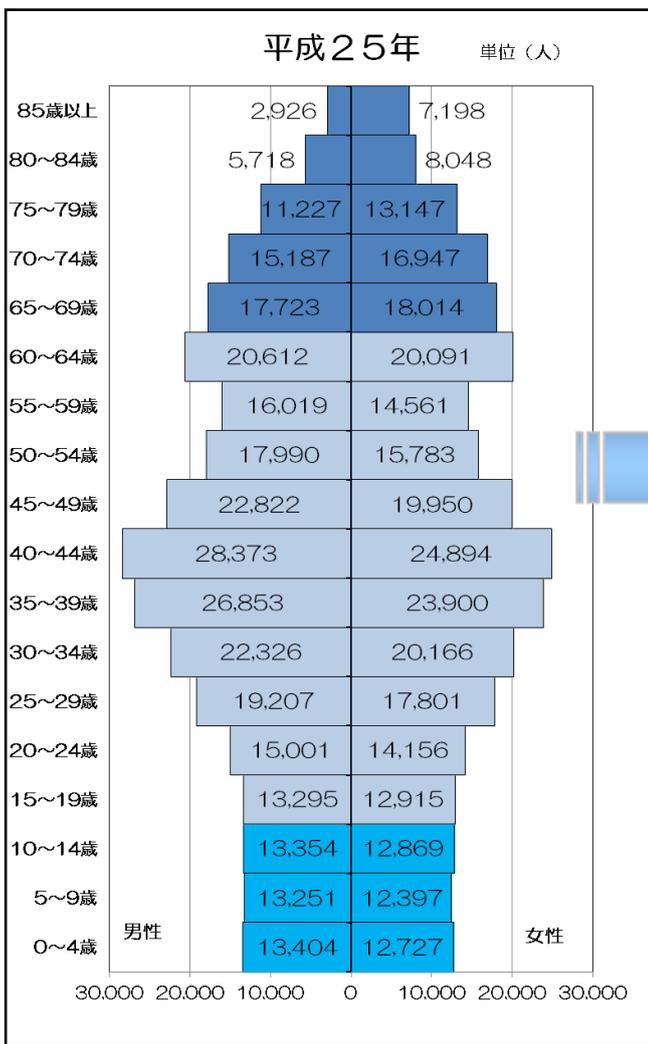
第2節 人口の構造

平成25年5歳階級別の人口をみると、男女とも40～44歳の年齢層が最も多く、平成37年将来推計人口ではそのままの推移で50歳～54歳が最も多くなっています。

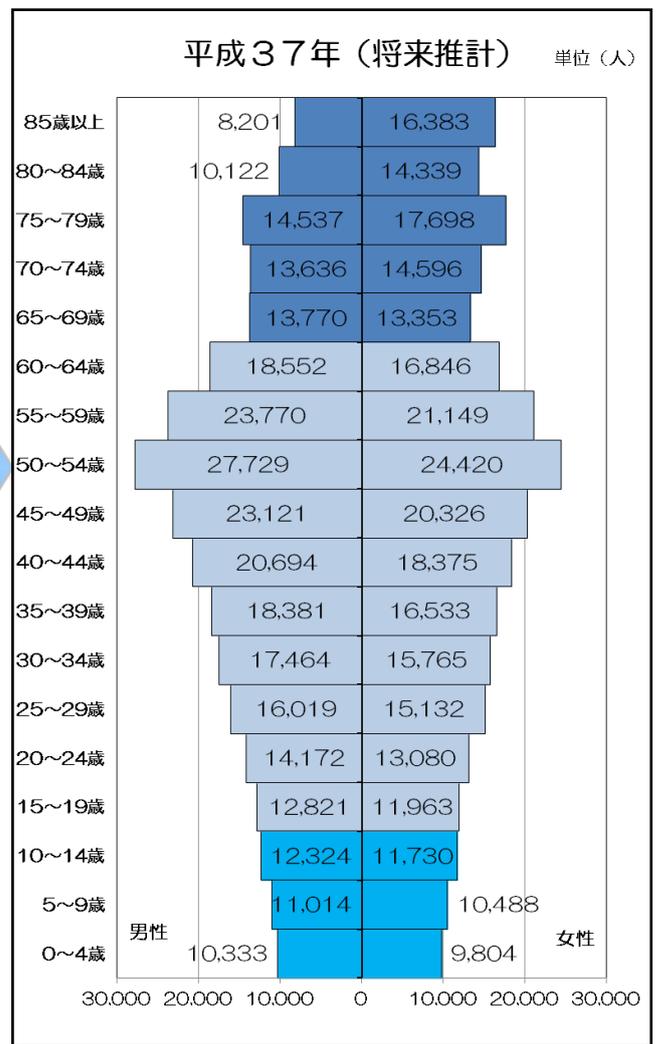
年少人口（0歳～14歳）については、平成25年には5歳階級ごとの差はあまりないですが、平成37年には減少傾向になることが予想されます。

老年人口（65歳以上）については、65歳～74歳の前期高齢者は若干の減少がみられますが、75歳以上の後期高齢者について増加傾向にあり、全体として老年人口の増加が予想されます。

このことから、今後、少子高齢化が進行することが予想されます。



(単位：人)



(単位：人)

平成25年実績	総数	男性	女性
人口	580,852	295,288	285,564
65歳以上人口	116,135	52,781	63,354

出典：1月1日現在総人口

平成37年推計	総数	男性	女性
人口	568,640	286,660	281,980
65歳以上人口	136,635	60,266	76,369

出典：国立社会保障・人口問題研究所

「日本の市区町村別将来推計人口(平成25年3月推計)」
(平成22年国勢調査人口を基準に推計) をもとに作成

第3節 出生、死亡の状況

1 出生数

出生数は減少傾向にあり、平成23年の出生数は4,970人です。 (単位：人)

	出生数	(再掲)		乳児死亡数	15歳未満死亡数
		低出生体重児 ^{注2} 出生数	極低出生体重児 ^{注3} 出生数		
平成19年	5,252	527	34	18	43
平成20年	5,358	497	41	10	20
平成21年	5,310	492	93	14	26
平成22年	5,210	510	23	10	19
平成23年	4,970	439	30	9	16

出典：埼玉県人口動態統計、埼玉県保健統計年報をもとに作成

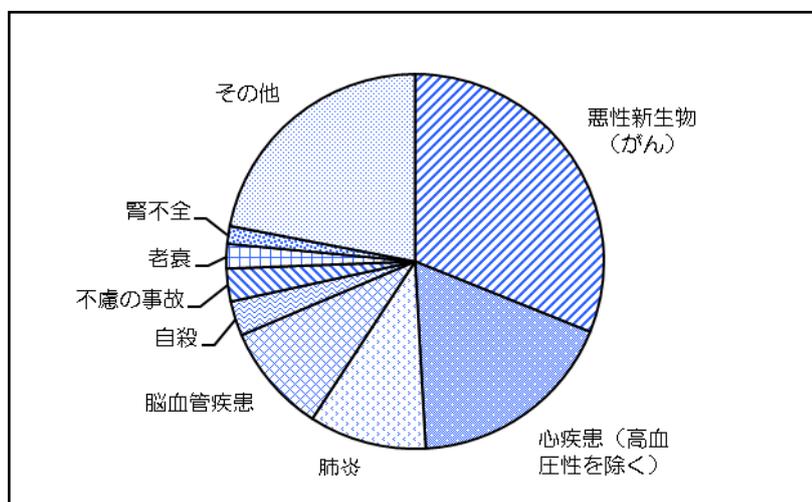
注2 低出生体重児とは、出生時に体重が2,500g未満の新生児のことをいいます

注3 極低出生体重児とは、低出生体重児のうち、1,500g未満の新生児のことをいいます

2 死因別死亡割合(平成23年)

全死因に占める死因別死亡割合は「悪性新生物(がん)」が3割を占め、高い割合です。

		死亡数(人)	死亡割合(%)
全死因		4,305	100.0
第1位	悪性新生物(がん)	1,340	31.1
第2位	心疾患(高血圧性を除く)	774	18.0
第3位	肺炎	433	10.1
第4位	脳血管疾患	405	9.4
第5位	自殺	129	3.0
第6位	不慮の事故	122	2.8
第7位	老衰	91	2.1
第8位	腎不全	66	1.5
その他		945	22.0



出典：埼玉県人口動態統計をもとに作成
※死因順位に用いる分類項目による。

3 ライフステージ別死因順位（平成19年～23年）

ライフステージ別の死亡割合をみると、特に青年期及び壮年期は「自殺」による死亡の割合が目立って高い状況です。

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	先天奇形、変形及び染色体異常	悪性新生物（がん）	自殺	自殺	悪性新生物（がん）	悪性新生物（がん）	悪性新生物（がん）
	31.6%	16.7%	48.4%	30.6%	43.7%	30.8%	32.5%
第2位	周産期に発生した病態	心疾患（高血圧性を除く）	不慮の事故	悪性新生物（がん）	心疾患（高血圧性を除く）	心疾患（高血圧性を除く）	心疾患（高血圧性を除く）
	11.4%	16.7%	17.6%	21.9%	14.4%	18.2%	17.2%
第3位	乳幼児突然死症候群	不慮の事故	悪性新生物（がん）	心疾患（高血圧性を除く）	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患
	8.9%	16.7%	8.8%	10.5%	9.7%	11.0%	10.6%
第4位	その他の新生物	先天奇形、変形及び染色体異常	心疾患（高血圧性を除く）	不慮の事故	自殺	肺炎	肺炎
	6.3%	8.3%	6.6%	7.5%	6.8%	10.8%	9.1%
第5位	不慮の事故	自殺	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故	老衰	自殺
	6.3%	8.3%	3.3%	7.1%	3.6%	2.9%	3.2%
第6位	腸管感染症	腸管感染症	敗血症	肝疾患	肝疾患	不慮の事故	不慮の事故
	3.8%	4.2%	1.1%	2.5%	2.8%	2.5%	2.9%
第7位	肺炎	肺炎	脳血管疾患	肺炎	肺炎	腎不全	老衰
	3.8%	4.2%	1.1%	1.6%	2.6%	2.0%	2.3%
第8位	悪性新生物（がん）	周産期に発生した病態	筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の新生物	糖尿病	糖尿病	腎不全
	2.5%	4.2%	1.1%	1.3%	1.3%	1.3%	1.7%
	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他
	25.3%	20.8%	12.1%	17.1%	15.1%	20.5%	20.6%

出典：埼玉県人口動態統計

※死因順位に用いる分類項目による。死亡数が同数の場合は死因簡単分類のコード番号順に掲載している。

第4節 平均寿命と健康寿命

川口市の平均寿命は、男性78.98年、女性85.88年です。65歳に達した人の健康寿命は、男性が16.15年、女性が19.30年となっており、男女とも埼玉県よりも短い状況です。

川口市（平成23年）

	総数	男性	女性
平均寿命（0歳平均余命） ^{注4}	-	78.98年	85.88年
65歳平均余命 ^{注4}	-	18.22年	23.44年
65歳健康寿命 ^{注5}	-	16.15年	19.30年
65歳要介護期間 ^{注6}	-	2.07年	4.14年
要介護等認定率（65歳以上） ^{注7}	13.2%	10.0%	15.9%

出典：埼玉県の健康寿命算出ソフト「健寿君」をもとに作成

埼玉県（平成23年）

	総数	男性	女性
平均寿命（0歳平均余命）	-	79.64年	86.05年
65歳平均余命	-	18.65年	23.58年
65歳健康寿命	-	16.85年	19.77年
65歳要介護期間	-	1.80年	3.81年
要介護等認定率（65歳以上）	13.3%	9.4%	16.6%

出典：埼玉県の健康寿命算出ソフト「健寿君」をもとに作成

注4 平均余命とは、ある年齢から、その後生きられる平均年数のことをいい、0歳の平均余命を特に平均寿命といいます

注5 65歳健康寿命とは、埼玉県における定義で要介護状態（要介護度2以上）になることなく、健康で自立した生活を送ることができる期間をいいます

注6 65歳要介護期間とは、65歳以降、要介護度2以上に認定後の期間をいいます（65歳平均余命－65歳健康寿命）

注7 要介護等認定率（65歳以上）とは、65歳以上人口のうち要介護等認定者の占める割合のことをいいます
 （65歳以上要介護等認定者数÷65歳以上人口×100）

第5節 国民健康保険の現状

1 生活習慣病関連疾患と医療費の状況

国民健康保険の医療費総額は年々増加しており、高齢化により今後も増加する可能性があります。

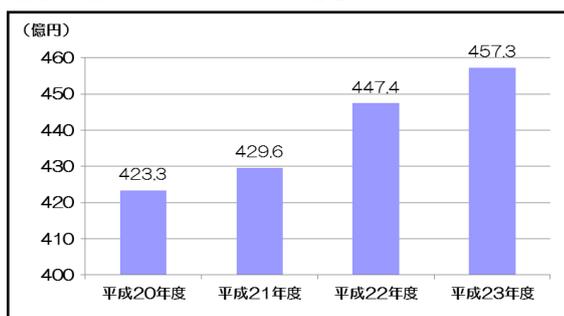
川口市における平成23年度の医療費総額は約457億円となっており、なかでも40～74歳の医科に関わる総医療費約327億円のうち3割強を生活習慣病関連上位6疾患で占めています。

レセプト件数と医療費の関係では、特に悪性新生物、腎不全で、件数が少ないにもかかわらず、多くの医療費がかかっていることが分かります。

腎不全患者数と外来医療費の関係では、平成25年4月と平成20年4月を比較すると、患者数は126名増加し、医療費は1か月当たり約5,000万円も増加しました。

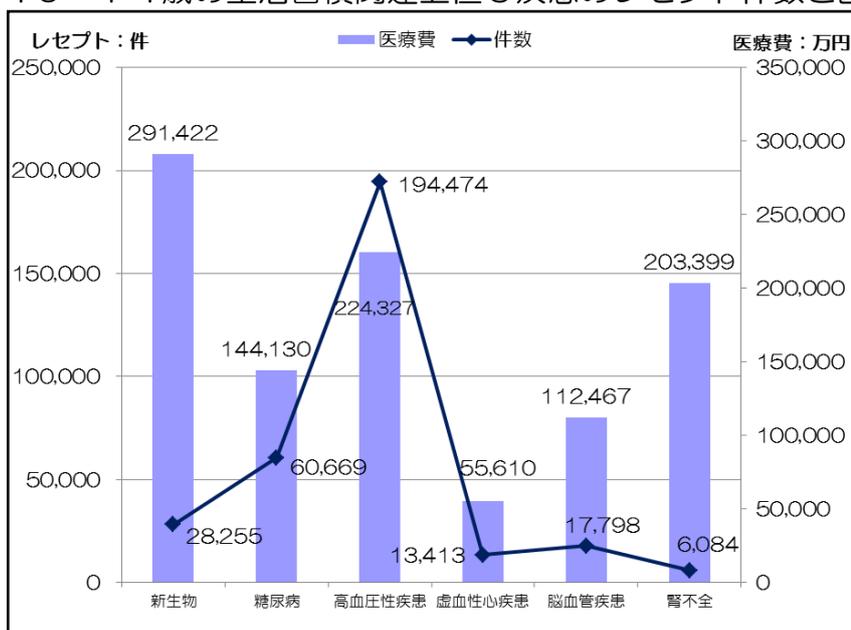
今後、高齢化の進展により糖尿病や高血圧性疾患が増加することで、腎不全に伴う人工透析患者の増加や脳内出血・脳梗塞などの重大な疾患を発症する患者が増加することが懸念されます。また、重大な疾患患者の増加は、要介護者の増加にもつながることが予想されます。

国民健康保険医療費総額



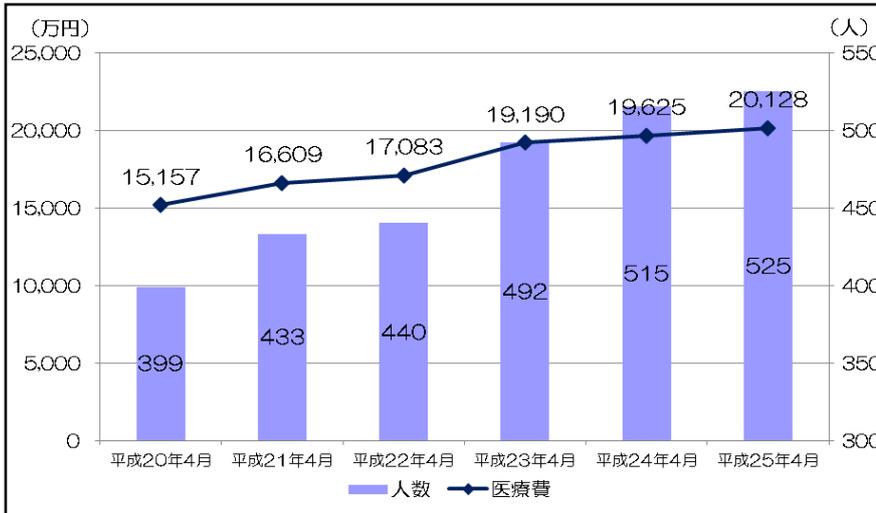
出典：川口市国民健康保険第2期特定健康診査等実施計画をもとに作成

40～74歳の生活習慣関連上位6疾患のレセプト件数と医療費の状況（平成23年度）



出典：川口市国民健康保険第2期特定健康診査等実施計画をもとに作成

腎疾患外来患者数と1か月あたり医療費の推移



出典：埼玉県国民健康保険団体連合会のデータをもとに作成

2 特定健康診査・特定保健指導の状況

平成20年4月から医療制度改革大綱の基本的な枠組みの一つに、生活習慣病対策推進体制の構築が盛り込まれ、医療費適正化の総合的な推進に向け、医療保険者に特定健康診査・特定保健指導の実施が義務づけられました。この特定健康診査等は、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防し、メタボリックシンドロームの該当者及びその予備群を減少させることを目的としています。

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満を共通の要因として、高血糖、脂質異常、高血圧のいずれか二つ以上の要因をあわせもった状態のことをいい、その予備群とは、高血糖、脂質異常、高血圧のいずれか一つの要因をもっている状態のことをいいます。

川口市におきましても、平成20年度から国民健康保険被保険者に対し、特定健康診査等を実施し、医療費増加の要因となっている糖尿病等の生活習慣病の発症予防や重症化予防に重点を置き、国民健康保険被保険者の健康の維持増進を図っているところです。

このような状況の中、国民健康保険の特定健康診査の受診率、特定保健指導実施率は、県内市町村平均と比べて、低い状態が続いています。未受診者に対する健診受診の必要性や知識の啓発、周知が課題となっています。

また、川口市国民健康保険のメタボリックシンドローム該当者の受診者に占める割合は15～16%と県内市町村平均より相対的に低く推移しています。

国民健康保険特定健康診査・特定保健指導の状況

特定健康診査受診率

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
対象者	104,305 人	104,450 人	103,936 人	104,304 人	103,986 人
受診者	19,615 人	24,456 人	24,932 人	25,711 人	27,172 人
受診率	18.8%	23.4%	24.0%	24.7%	26.1%
目標受診率	35.0%	35.0%	45.0%	55.0%	65.0%
県内市町村平均	31.8%	31.7%	32.3%	33.1%	34.5%

出典：埼玉県国民健康保険団体連合会のデータをもとに作成

特定保健指導実施率

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
対象者	3,065 人	3,157 人	3,108 人	3,142 人	3,249 人
実施者	323 人	614 人	434 人	434 人	378 人
実施率	10.5%	19.4%	14.0%	13.8%	11.6%
目標実施率	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%
県内市町村平均	9.3%	15.8%	16.0%	18.6%	17.1%

出典：埼玉県国民健康保険団体連合会のデータをもとに作成

メタボリックシンドローム該当者・予備群該当者の状況

保険者名	メタボリックシンドローム該当者				
	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
川口市	16.16%	15.35%	15.18%	15.52%	15.50%
県内市町村平均	16.26%	15.80%	15.97%	16.09%	16.33%

保険者名	メタボリックシンドローム予備群該当者				
	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
川口市	12.34%	11.87%	11.68%	11.19%	10.73%
県内市町村平均	11.76%	11.23%	10.95%	10.85%	10.65%

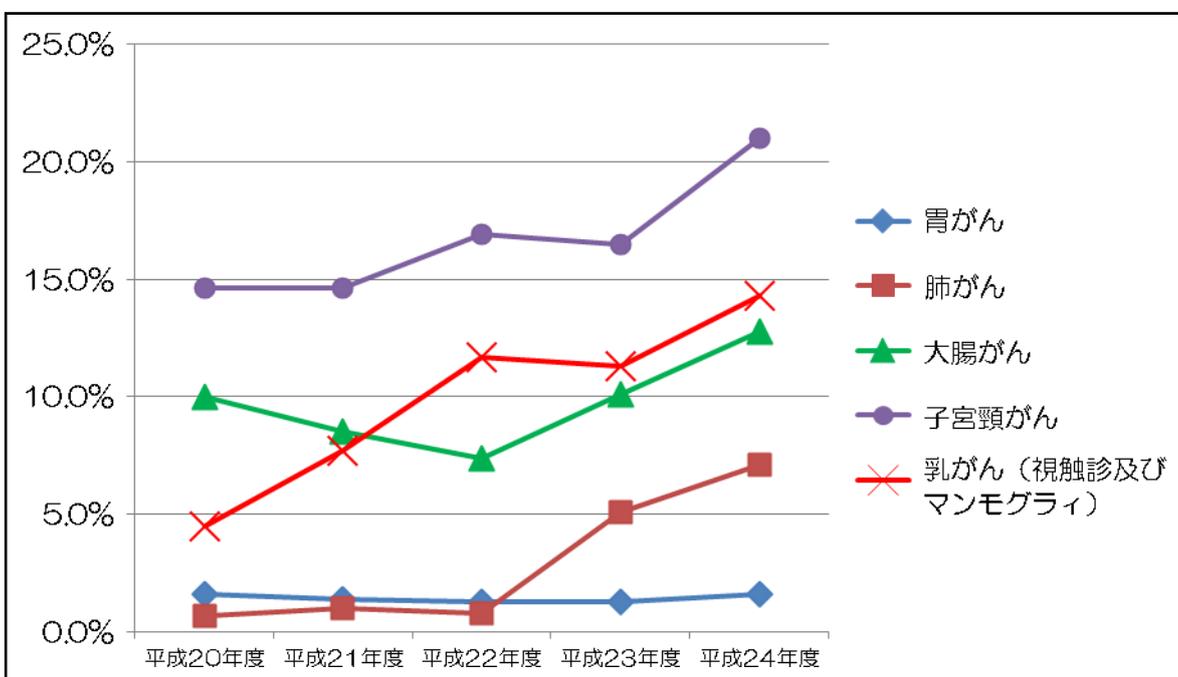
出典：埼玉県国民健康保険団体連合会のデータをもとに作成

第6節 がん検診の受診率

疾病の早期発見、早期治療につながるよう各種がん検診を実施しています。がん検診の推移を見ると、胃がんは横ばい傾向にありますが、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんの受診率は向上しています。しかし、平成23年度までの埼玉県との比較すると、どの検診においても埼玉県より受診率が低くなっています。

川口市のがん検診受診率の年次推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
胃がん	1.6%	1.4%	1.3%	1.3%	1.6%
肺がん	0.7%	1.0%	0.8%	5.1%	7.1%
大腸がん	10.0%	8.5%	7.4%	10.1%	12.8%
子宮頸がん	14.6%	14.6%	16.9%	16.5%	21.0%
乳がん（視触診及びマンモグラフィ）	4.5%	7.7%	11.7%	11.3%	14.3%



出典：地域保健・健康増進事業報告をもとに作成

埼玉県のがん検診受診率の年次推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
胃がん	7.4%	6.3%	6.3%	6.1%
肺がん	13.7%	13.9%	14.4%	15.0%
大腸がん	14.9%	14.6%	15.0%	16.8%
子宮頸がん	13.7%	15.7%	17.4%	17.8%
乳がん（視触診及びマンモグラフィ）	11.0%	14.4%	16.8%	16.6%

出典：地域保健・健康増進事業報告

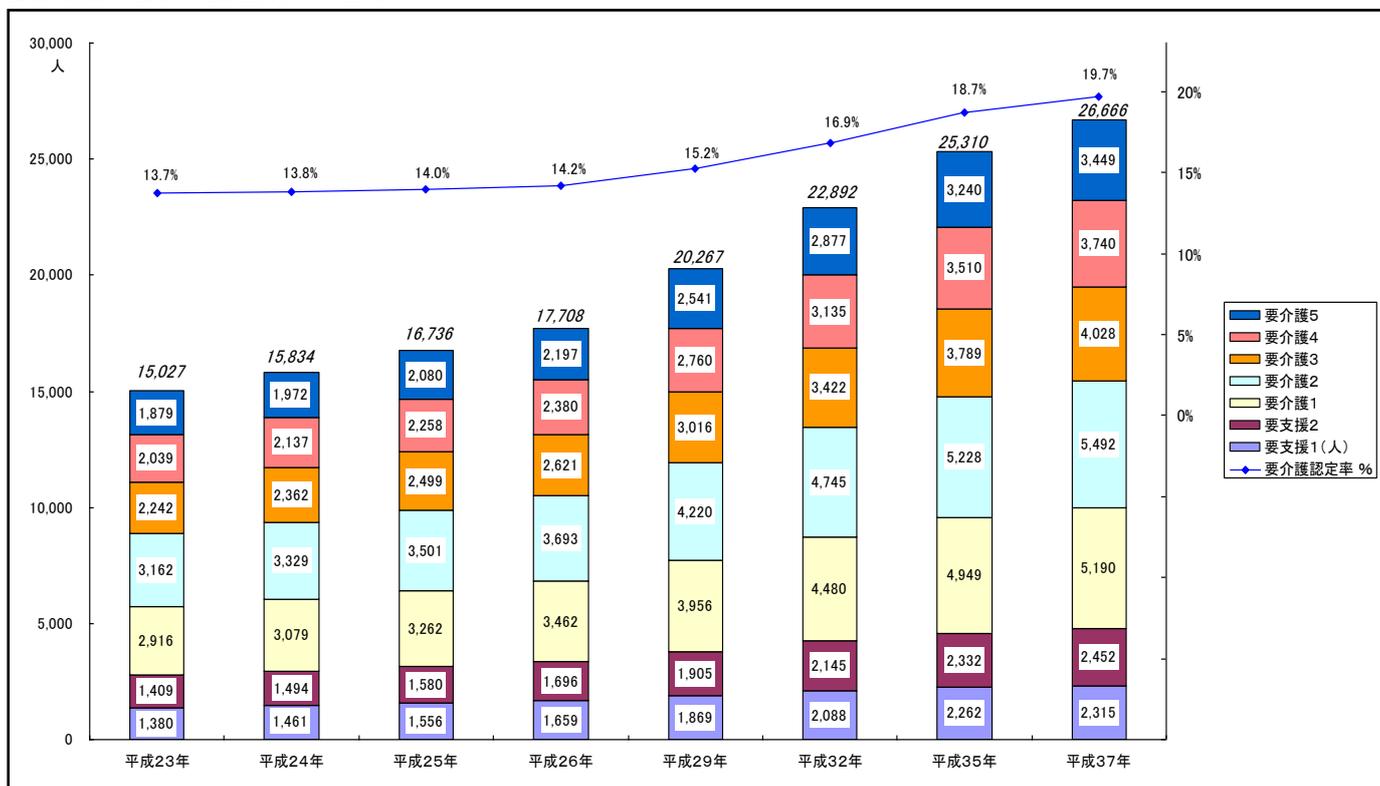
第7節 介護保険認定者数の推移

高齢者数の増加に伴い、生活支援や介護を必要とする高齢者もまた増加が予想されます。

65歳以上に占める要支援・要介護者の割合（認定率）は、「第5期川口市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の期間中に14%となり、約2,000人の増加が見込まれます。

今後もこの傾向が続く場合、平成37年には、約20%となり65歳以上の5人に1人が要支援・要介護状態になるものと見込まれます。

要支援・要介護者数の推移



要支援・要介護認定者数の推計

(単位：人)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成29年	平成32年	平成35年	平成37年
要支援1	1,380	1,461	1,556	1,659	1,869	2,088	2,262	2,315
要支援2	1,409	1,494	1,580	1,696	1,905	2,145	2,332	2,452
要介護1	2,916	3,079	3,262	3,462	3,956	4,480	4,949	5,190
要介護2	3,162	3,329	3,501	3,693	4,220	4,745	5,228	5,492
要介護3	2,242	2,362	2,499	2,621	3,016	3,422	3,789	4,028
要介護4	2,039	2,137	2,258	2,380	2,760	3,135	3,510	3,740
要介護5	1,879	1,972	2,080	2,197	2,541	2,877	3,240	3,449
要介護認定率	13.7%	13.8%	14.0%	14.2%	15.2%	16.9%	18.7%	19.7%
合計	15,027	15,834	16,736	17,708	20,267	22,892	25,310	26,666

出典：第5期川口市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

※太線ワクは、第5期計画期間

※各年10月1日

※要介護認定率の算出に必要な65歳以上人口は、第5期川口市高齢者福祉計画・介護保険事業計画における平成23年10月1日現在総人口からの推計値を使用しています